



自然観察

No. 99
2011
6月

目次

・ 2011年度総会終わる	2010年度決算報告・監査報告	2
・	2011年度予算	3
・ 会計からのお願い		3
・ 2011年度講演会講演要旨		4
・ 地方研修会in旭川のお知らせ		7
・ 第22回滝野の自然に親しむ集いへご協力を		7
・ フィールドニュース 手稲区、小樽市、北見市		8
・ ヒグマを知ろう 第五回 痕跡を読む その2		10
・ ウォッチングレポート		12
・ 参加者の声		14
・ 地方研修会in札幌のお知らせ		14
・ ウォッチングプラン		15
・ 事務局だより・理事会だより		16
・ 連絡先他		16



バイケイソウ

2007/ 6/ 16 北見市

2 0 1 1 年 度 総 会 終 わ る

2011年度北海道自然観察協議会総会は4月9日(土)に札幌エルプラザ環境研修室で開催されました。総会では新年度の事業計画、予算等が決定されました。

引き続き講演会が行われました。講師はNPO法人 森林再生ネットワーク理事山本 牧氏、演題は「森を生かす、人をつなぐ」でした。

年度末で確定した決算報告・監査報告、2011年度予算を掲載します。

2010年度事業報告、2011年度事業計画については、会報98号をご参照ください。

2 0 1 0 年 度 決 算 報 告

収入の部 単位(円)

項 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
前年度繰越	554,594	554,594	0	
会 費	423,000	429,500	6,500	会員340名(新会員1名)
雑 収 入	500	8,595	8,095	利子 全道研修残金 寄付金
観 察 会 参 加 料	70,000	63,650	-6,350	観 察 会 保 険 料 資 料 代
合 計	1,048,094	1,056,339	8,245	

支出の部 単位(円)

項 目	予算額	決算額	増 減	摘 要	
事務費	通 信 費	60,000	51,435	-8,565	切手代 はがき 郵送費
	消 耗 品 費	30,000	25,020	-4,980	用紙 印刷代 コピー代
	会 議 費	40,000	31,760	-8,240	理事会会場費
	小 計	130,000	108,215	-21,785	
会報費	会報郵送費	130,000	110,160	-19,840	会報4回発行(クロネコメール便)
	印 刷 代	210,000	181,860	-28,140	印刷代(会報91~94号)
	ラ ベ ル 代	4,500	4,200	-300	会報発送用ラベル
	封筒印刷代	30,000	0	-30,000	角2封筒2000枚
	原稿謝礼代	5,000	0	-5,000	
	通 信 費	15,000	12,170	-2,830	編集部関係の通信費
	消 耗 品 費	10,000	1,118	-8,882	ゼロテープ
	小 計	404,500	309,508	-94,992	
活動費	観 察 会 費	70,000	20,728	-49,272	参加者保険、配布材料、通信費
	総 会 開 催 費	50,000	19,435	-30,565	会場使用料 講師謝礼
	全 道 研 修 費	60,000	60,000	0	講師謝礼 会場使用料 資料代
	地 方 研 修 費	40,000	21,550	-18,450	講師謝礼 会場使用料 資料代
	指 導 員 講 習 会	0	0	0	
	救 命 救 急 講 習	16,000	14,350	-1,650	講師派遣費 会場使用料 講師駐車代
	用 具 費	20,000	0	-20,000	
	雑 費	12,000	9,800	-2,200	森と自然を守る会 盗掘防止ネットワーク
小 計	268,000	145,863	-122,137		
30周年積立	30,000	30,000	0		
予 備 費	215,594	7,000	-208,594		
合 計	1,048,094	600,586	-447,508		

収支残高



収入 1,056,339 円 - 支出 600,586 円 = 455,753 円 (2011年度へ繰越)

30周年特別会計

2009年度から繰越金	690,000円
2010年度積立金	30,000円
<hr/>	
2011年度へ繰越金	720,000円

2011年4月9日

上記の通り決算報告いたします。

会計 畑中 嘉輔  会計 小川 祐美 

2011年4月9日

上記に関する監査を実施し、適正であることを認めます。

監事 佐藤 祐  監事 鈴木 克司 

2011年度 予算

収入の部

単位(円)

項 目	決算額	予算額	増 減	摘 要
前年度繰越	554,594	455,753	-98,841	
会費	429,500	420,000	-9,500	会員330名
雑収入	8,595	200	-8,395	利子
積立金取崩し	0	350,000		指導員講習助成
観察会参加料	63,650	70,000	6,350	観察会参加費(保険料 資料代)
合 計	1,056,339	1,295,953	239,614	

支出の部

単位(円)

項 目	決算額	予算額	増 減	摘 要	
事務費	通信費	51,435	60,000	8,565	切手代 はがき 郵送費
	消耗品費	25,020	30,000	4,980	用紙 印刷代 コピー代
	会議費	31,760	50,000	18,240	理事会・部会会場費
	小 計	108,215	140,000	31,785	
会報費	会報郵送費	110,160	120,000	9,840	会報4回発行(クロネコメール便)
	印刷代	181,860	200,000	18,140	印刷所へ支払い
	ラベル代	4,200	5,000	800	会報郵送用ラベル
	封筒印刷代	0	30,000	30,000	殻2封筒印刷
	原稿謝礼代	0	5,000	5,000	
	通信費	12,170	13,000	830	編集部関係の通信費
	消耗品費	1,118	2,000	882	セロテープ 用紙
	小 計	309,508	375,000	65,492	
活動費	観察会費	20,728	70,000	49,272	参加者保険 配布資料 振込手数料
	総会開催費	19,435	30,000	10,565	会場使用料 講師謝礼
	全道研修費	60,000	60,000	0	講師謝礼 会場使用料 資料代
	地方研修費	21,550	40,000	18,450	講師謝礼 会場使用料 資料代
	指導員講習会助成	0	350,000	350,000	
	救命救急講習会	14,350	16,000	1,650	講師派遣費 会場使用料
	用具費	0	20,000	20,000	
	雑費	9,800	9,200	-600	森と自然を守る会 盗掘防止ネットワーク
	小 計	145,863	595,200	449,337	
30周年積立	30,000	30,000	0		
予備費	7,000	155,753	148,753		
合 計	600,586	1,295,953	695,367		

収支残高

収入 1,295,953 円 - 支出 1,295,953 円 = 0 円

30周年特別会計

2010年度から繰越金	720,000 円
2011年度積立金	30,000 円
指導員講習会助成	-350,000 円
2011年度へ繰越	400,000 円

会計からのお願い

会費の納入はお早めに

今年度(平成23年度)の会費納入状況は今のところ、会員のおよそ3分の2の方が納入されています。まだ納入されていない方は、3月発送の会報に同封した振込用紙で納入ください。

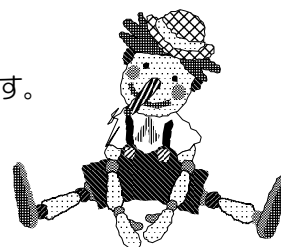
2年以上未納の方へのお知らせ

会報に同封して振込用紙を送りました。会費納入のご協力をお願いします。

★退会の申し出があるまでは北海道自然観察協議会の会員です。

届けが出されるまで、会費をお支払いいただきます。

★郵便振替口座 02710-1-8768 北海道自然観察協議会



会計 畑中 嘉輔 TEL 011-581-5439

4月9日定期総会に引き続き、講演会が開催されました。

講師は、山本牧氏で、現在の森の状況や抱える問題、さらに人との繋がりをどう考えていくかなどをわかりやすく講演していただきました。

当日参加出来なかった会員の方々に、講演内容をお伝えし、今後の活動に役立てて頂きたいと思い、講演の要旨をまとめました。

(永山 記)



森を生かす、人をつなぐ

NPO法人 森林再生ネットワーク 山本 牧

いまご紹介にあずかりました山本 牧です。私は道産子ではありませんが、熊を追っかけて山を歩いていました。熊は僕の案内人であり、お師匠さんでした。

大学の教科書には林学は林業の学だと書いてありましたが、僕は森林の学であるべきだと思い、今はそうなりつつあります。

NPOを作ったのも森と人間、生き物の関係を考え直したいと思ったからです。北海道の森は傷んで非常に悪い状態にあります。再生可能な部分がありますから50年～100年経てばかなり良い状態に持って行けます。そのために今やるべきことを考えてほしいと思っています。地元の人と森をつなぎ、みんなが北海道の森をちゃんと見るといふ時代にしたいなというのが今日の一つのテーマです。

作家の倉本聰さんが、林業、森林は100年の計だとよくおっしゃいます。私は倉本さんに“それ言わないで下さい、100年の計とは役人の逃げ口上で、やるべきことやったら、必ず5年、10年で変わってくる、100年の計なんて言って、何もしないお役人を免罪しないで下さい”とお願いしたことがあります。

明治、大正期は北海道の開拓が盛んに行われました。昭和に入ると開拓目標は満州や樺太など植民地に移り、戦争中には木を沢山切りました。高度成長の昭和30、40年代には天然林を切ってお金になる成長の早いカラマツを植えました。当時は石炭産業の坑木や建物の足場丸太の需要がありましたが、石炭産業は消え、足場丸太は全部鉄骨になり、間伐材は売れなくなりました。

明治初期の絵を見ると、大木が生え、クマも人もそんなに緊張関係はないようです。広葉樹が多くフキも多いがササは少なく、木には黒いうろがあり、小はモモンガから大はシマフクロウが利用していました。

現在、北海道の広葉樹伐採量はピーク時の1割しかありません。私の住む旭川でも、家具材として重要な材は、いまやナラはオーク、クルミはウオールナット、イタヤはメープル等と呼ばれ、マレーシア、ロシアやカナダから輸入しています。残念な状況です。

国有天然林では悲惨な例もあります。トラクター、ブルドーザーで抜き切りした丸太を引っ張り出し、若い木や根を痛めています。皆伐して植えることが問題視される例が多いのですが、それ以外にも、乱暴な択伐もまた大きな問題を含みます。残した木が非常に傷み、立ち枯れることもあります。全部立ち枯れてその上に種が落ちてきて、200年～300年経たないと元の森には戻りません。

もう一つの問題が人工林の手入れ遅れです。間伐をしないため、40年経っても直径20cmくらいの細いトドマツ林があります。間伐遅れの人工林は、植生が単調で暗く、立体感も生物多様性もない森になっています。

林業は国立公園の中でもできます。環境省と林野庁の取り決めによりますと、特別地域の第一種以上は保全対象ですが、普通地域では皆伐や択伐ができます。

昔は山奥の通いができない場所に、小さな飯場を建てて沢山の人が泊まり込んで仕事をしていま

した。飯場には必ず山神さんを祭り、酒や餅をお供えをしてお祈りする習慣がありました。今でもアイヌの人たちは狩猟に出る前の日、神聖な神様が出入りする窓、上座に銃を置いて、たき火を焚いてお酒を飲んで、猟ができることとお互い怪我をしないよう祈ります。山の中を丁寧に謙虚に歩くという習慣が北海道に残っているのです。

国後ではシマフクロウの巣穴を見つけました。大木が折れてできた洞の中で、雨が入るし、外敵にも弱い、ヒナを育てるには劣悪な環境です。大きな鳥が暮らすためには、奥深い非常に複雑な多様性に富んだ森が必要ですが、国後でも大きな木は少なくなっているのです。

北海道のシマフクロウの分布をみると、養魚場と人工巣箱にかなり依存して生息しています。人口巣箱を設置したり、えさを供給するというやり方で数少ない生き物は生き延びているのです。既にこの島からはオオカミとカワウソが消えてしまいました。一見、緑に覆われていても、本来の豊かさは失われているのです。

国土に対する森林の比率（森林率）をみると、日本は2500万ha、66%が森林で、北海道は554万ha、71%です。日本は世界的な森林国であるフィンランド、スウェーデンと肩を並べています。ロシアは60%。ドイツ30%、カナダ、アメリカも30%台。世界の森林率はだいたい30%位です。日本は、森林率66%でありながら、世界屈指の木材輸入大国でもあるのです。

地球温暖化対策で植樹が奨励されていますが、本当でしょうか。植樹祭をする場所では事前に木を切って準備しています。名前のついている木もあるから間伐もままなりません。極端な言い方をすると、砂漠地帯や熱帯と違い、水と気温がちょうどいい日本は、植えなくても木は育ちます。やみくもに植えるより、既に植栽した人工林の手入れの方がはるかに有効だし、重要です。どこの天然林を残し、林業生産はどこでするのかそうした基本的なゾーニングが必要です。自給率を高める可能性は、林業は農業以上にあると思います。

北海道は1954年(昭和29年)、洞爺丸台風で直径50~60cmクラスの木が沢山倒れました。木が倒れたのは天災です。しかしこの時、北海道の森には大きな変化が起きました。ノコギリや斧で倒して馬で運んでいた林業が、チェーンソーとトラックに代わり、農家の副業的季節労働が、通年雇用の作業員になりました。営林署と製材工場がものすごく沢山出来ました。通年雇用の人と、機械類、製材工場を維持するため木を切り続けました。ブルドーザーやトラックで木を運び出すことによ

て、環境に負荷がかかり続けました。斜面の土壌浸食は、沢の水質汚濁と生物絶滅を招きました。



山奥に造られ止まった大規模林道

日本政府が京都議定書に応えたCO₂の吸収目標があります。木を植えるとCO₂はこれだけ削減されると机上で計算し、木を植えます。全部税金でやってます。しかし木は適切な切り出しと手入れをしないので、立ち枯れてしまっています。我々一般市民はもっと有効な環境の守り方、税金の使い方について知り、ものを言うていくことが必要です。また一昨年、国が政策転換して止まりましたが、どこにもつながってない大規模林道があります。林業振興といいますが、資源も需要もない場所です。200km造る予定が、100km造ったところで放棄され、このあとどうするのでしょうか。

大規模林道のように無駄で環境を壊す道もありますが、林業の生産基盤に道は必要です。昔は冬季の伐採が多く、恒久的な道つけなどは考えられませんでした。今は違います。私の属するNPO「もりねっと」は、小さな機械で森の手入れをするための細い道を作ろうとしています。

市民は素人なりに勉強して森を見る力をつけ、納得のいく説明をプロに求める。納得したらOKを出すというシビリアンコントロールが、林業にも必要です。原子力発電やダム建設などの巨大技

術に対しても同じで、「専門家任せ」は危険です。

■突哨山の試み

上川盆地に突きだした突哨山はカタクリの名所です。ゴルフ場になる予定でしたが、地元の人々の反対やバブルの崩壊があり、旭川市と比布町が買い取って、市民の公有緑地になりました。

活用方法をいろいろ提言しても、草刈りするくらい予算しかありません。そこで委員公募の運営協議会を作り、決まったことを実行に移す指定管理者という二段構えの仕組みを市に提案し、受け入れてもらいました。市民による意志決定とその実行という形ができて3年になります。今年も観察協議会のメンバーも含め、約30人の市民ボランティアが歩道で解説する花案内人の制度が始まりました。

「もりねっと」がその指定管理者を受託し、歩道の管理や植生・動物の調査、体験観察会などを開いています。



突哨山で行われた観察協議会の間伐研修

例えば市民の森林体験では、ゾーニングで手入れの対象と決めた人工林で、どの木を切るかいろいろ考えながら選んでもらいます。切り倒すのはあっという間です。木は重いので、切るよりも運び出すほうが大変ですし、下手に大きな機械を使

えば環境を傷つけてしまいます。このときは人力で運び出し、苦労を実感しました。森を遠くから眺めるのではなく、暮らしに必要な素材をどう持続的にいただくか、恵みを活用することを体を動かして考えるのです。



細い道で小さな機械を使った間伐の実験事業

突哨山では人工林の間伐もやっています。人工林約35haのうち、1%が林業的な手入れの対象、別の1%が全く手入れをしない、対照的な場所。この二つは遊歩道脇にあり、左右で対照的な森を見ることができます。残る大半は植栽された針葉樹に天然の広葉樹が混じる「混交林」にゆっくりと誘導する予定です。奥の方にはミズナラやイタヤやセンノキの若い木が沢山生えています。ナラやイタヤは長い寿命を持っているので、100年後には広葉樹中心の森になり、200年、300年と続きます。ゆっくり自然に帰していくという運営をしています。

先ほど触れた「花案内人」は、半日単位で「あなたもできる5分間ガイド」がうたい文句です。簡単な講習を受けて現場に出て頂く。5分間でもいい。自分が見るだけではなく、他人にいいしょと言える人を増やすことが、この山の保全につながるのではないかと考えています。ありがとうございました。

地方研修会in旭川のお知らせ

「突哨山でコウモリと森のウォッチング」

コウモリは森の住人です。住処は樹皮の下だったり、キツツキが空けた穴だったりします。もちろん、餌も森の中だったりします。

道内でも数多くの種類がいる旭川・突哨山で、コウモリの捕獲調査体験や専門家の解説を聞き、ちょっと違う夜の森の姿を感じてください。

-
- と き： 8月13日(土) 午後4時～午後9時まで
※当日、札幌へ帰る人はJR特急に乗れる手配をします。
 - ところ： 旭川市東鷹栖の突哨山駐車場へ集合
(国道40号の比布トンネル旭川側の駐車帯です)
 - 案内人： 松田利一さん(旭川大名誉教授)、清水省吾さん(NPOもりねっと)
 - 内 容： コウモリの種類いろいろ、森との関係、調査方法解説、捕獲調査実技
(雨天は変更あり)
 - 遠方でJR利用の方はご相談ください。また、終了後、自炊で無料宿泊できる場所がありますので、こちらもご相談を。同じ場所で簡単な懇親会を行います。研修場所は、集合地点から少し移動します。必ず事前申し込みをお願いします。
 - 申 込： 原部(ファクス0166-37-2462)へ
 - 当日連絡は原部(080-6092-4347)山本(090-8903-3001)

第22回 滝野の自然に親しむ集いへご協力を

『滝野の自然に親しむ集い』の日程が下記のように決まりました。
たくさん子ども達や、その家族とともに自然のなかで楽しくすごしませんか。
指導員としてのフォローアップ研修にもなります。
多くの指導員の方々のご参加・ご協力をお願いいたします。
ご協力いただける方は担当者へご連絡下さい。

-
- 日 程： 8月6日(土)～8月7日(日)
 - 場 所： 滝野自然学園
 - 内 容： せせらぎウォッチング、野外炊飯、ナイトウォーキング、
星空ウォッチング、自然ハイキング他
 - 下 見： 1回目 7月16日(土)……自然学園とその裏山
滝野の森ハイキングコース
2回目 7月31日(日)……滝野スズラン丘陵公園「滝野の森」
 - 集合場所： いずれも地下鉄自衛隊前駅の裏口に 9:00集合
そこから車に分乗して現地に向かいます。
必要に応じ打合せ、下見を行います。14:00頃まで。
 - 担 当： 畑中 嘉輔 Tel・Fax 011-581-5439
池田 政明 Tel・Fax 011-708-6313
-

消えゆくマイフィールド

手稲区 三浦 美恵子

さあ、久しぶりいつものフィールドへ。

野鳥、昆虫、植物、菌類達とどんな出会いがあるか胸が踊る。

首に双眼鏡、デジカメ、腰にはシャベル、鋏、肩には押花道具、手には捕虫網等々持てる限りをもち長靴を履いて出発。

おや、重機が見える。コンクリートブロックも並んでいる。不安を抱きながら目を四方八方へと凝らしながら足を進める。

アリの撮るも、アリ達は忙しく動き回る。カメラに手に多数上がってくる。今日もピンボケ。

後背湿地の水位が上がっている。道具を持ってのふらつく長靴に水が入る。

あっ、美しいブルーのトンボ。体制が悪く百(ひゃく)均(きん)の網には入らない。次いでグリーンだ。これも失敗。葦原の根元には地味色のトンボ。イトトンボの仲間たちは捕獲できたが。

浅く水の澄んだ湿地には多数のカメムシの仲間、リュウノヒゲモ、イトモの花付を標本にすることができる。

今日も汗と砂でドロドロ。疲れた。しかし腰は下ろせない。採取物の整理だ。まず菌類を湿らせぬよう玄関フードに広げる。昆虫はデータを記入、冷凍庫へ。植物たちは砂、泥を落し押花に。

時折、家の中に相応しからぬ虫がいる。

庭先におやという芽が吹く。ある年には海岸の菌類が大発生したりと様々な驚き、出会いをもたらしてくれたマイフィールド。



イヌタヌキモ

柏林も後背湿地も海岸草原も消えるの？

草原の鳥、水辺の鳥、大好きな猛禽類達、クイナにはもう合えないの？

エンジンの音、身を避けながら水生昆虫たちに
自然観察 99号 (8)

「逃げろ」と心の中で叫ぶ。動けぬシャジクモにも…。タイヤは水飛沫を上げながら通り抜けていく。

エゾサンショウウオはどうなるの。ヤマシャクヤクは、クゲヌマランは、イヌタヌキモは、エリザハンミョウは、スナハマガマホノタケは。そして海岸草原の代表的なハマナスは、エゾスカシユリ達は、等等。

一見荒廃しているようなこの地にも多種多様な命の輝きがある。まだまだ未知の世界、私の中から大切な大切なフィールドがまた消えゆくのか。

Spring

小樽市 小川 祐美

雪が溶けて地面が見え始めると、最初に目にとまるのは、薄緑色の小さなつぼみです。後志の野山でも、ところどころにまだ雪が残り、草もやっと柔らかな芽をだし始めた頃、この小さなつぼみは、あちらこちらに、リズムカルに春の地面に広がっていきます。



フキノトウ

毎年、このうす緑色の小さなつぼみが目にとまりはじめると、春が本格的にスタートしたなあと感じます。実際、このフキノトウが現れ始めるとまもなく、山にこぶしの花の淡く白いスポットが見え始めます。このスポットがよりはっきりとした白になる頃、桜のつぼみが膨らみ、あるいはほ

ころびはじめの・・・といった具合です。Springという言葉には、春という意味と、わき出る、突然姿を現すなどの意味があることは、よく知られています。このつぼみは、まさに、この言葉にぴったりだと感じます。

緑色のちいさなつぼみと言いましたが、これは見た目の感じで表現したもので、正しくはフキの花茎とのこと。フキは、キクやタンポポと同様、キク科に属する多年草で、一見してわかるとおり、湿気が多いところを好んで群落をつくります。根茎に養分を蓄えながら冬を越し、地下茎を出して広がって行きます。春になると、この地下茎の先に花茎をだし、これがフキノトウとして私たちの目に留まることになるようです。

5月中旬ともなると、フキノトウが見られるところから、大きな葉をつけたフキの群落となるところまで、地形や日当たりによって大きく差が出てきます。このフキ、大きな葉と茎からなっているように見えますが、茎そのものは非常に短いため地上には見えておらず、いわゆるフキの姿は、茎から出ている葉柄と葉の部分になります。つまり、一般に食用とされる部分は、フキの茎ではなく葉柄なのだそうです。

フキといえば、フキノトウと、葉を広げたフキの姿を思い浮かべてしまいがちですが、実は雌雄異株で、それぞれ花をつけ、雌株では実がなるとのこと。どんな実がなるのか、今年はいつもと少し視点を変えて観察してみようと思います。

美幌町へ行ってきました

北見市 竹林 順子

連日の肌寒いお天気の中、9時に図書館前を出発し、通り道なので協和神社の桜を見物。エゾヤマザクラは5分咲きくらいでしょうか、チシマザクラらしき木の蕾が真っ赤で印象的だった。

10時に柏ヶ丘公園に着いた。ここは公園になっているが、職業訓練校やトレーニングセンター等大きな建物があり駐車場が広々としている。その駐車場まわりに植栽されている樹木が多種あった。大きく育ったカツラ・イチイ・バッコヤナギ・ネグンドカエデのそれぞれの雄木と雌木。トチノキ、ヨーロッパアカマツ、シラカンバ等、どの木も伸び伸びと立派。

名前の通り、歩く所はカシワとミズナラの落ち葉で地面が見えないくらいだった。あまり植物の種類は多そうではなかったがセンボンヤリ（ムラサキタンポポ）があちこちに小さな花を咲かせていた。ベニバナヤマシャクヤクの群生地という大

げさな看板があったが、カラー写真の花の色が褪せてベニバナではなくなっている。もう撤去したらと余計なお世話だけれど思った。

珍しさでいえば北見地方では自生しているのを見たことがないシラネアオイが6輪花を付けていた。晴れていたらきっと、顔を上げて中のシベが見られたのにと残念だった。

寒かったのでお昼は戸外ではなくトレーニングセンター内で食べるのができ助かった。

昼食後はせせらぎ公園へ、ここは相生線が走っていた線路を公園にした所だ。公園入口の青山歯科医院の前の斜面にクロユリとニリンソウの葉がびっしり繁っている。これが満開になるのは何年くらいかかるのかと楽しみに思った。橋の下から真ん中に川が流れていて両側に歩道が続いている。今が盛りのエゾムラサキツツジとエゾヤマザクラが歩道の両側に植栽されている。

歩き始めてすぐにオオイヌノフグリがひとむら可愛く咲いていた。民家と接しているのでヒメオドリコソウや園芸種のソバナが群生していたりして面白い。

かなり歩くと 美富自然公園の看板があり、春の草花がいろいろあった。バイケイソウ、ニリンソウ、ヒメザゼンソウ等。端野では見たことがないネコノメソウが座布団のように丸く叢生していた。

お天気がだんだん晴れてきて、小鳥たちのさえずりがにぎやかになってきた。飛び入り参加の方が鳥に詳しくて教えていただく。センダイムシクイの鳴き声をはっきり聞き、アオジをしっかり目視できてうれしかった。

今回歩いた所は元の線路を上手に利用した人工的な公園だが美幌町民の格好の散歩道になっているようで、何人もの方々とすれちがった。自然が生かされ整備された歩く所があつていいなあとし羨ましく思った。ほぼ予定通りに帰端した。



カツラの花
左 雄花 右 雌花

第五回 痕跡を読む その2

旭川市 山本 牧
(当会理事、ヒグマの会)

永かった冬がおわりました。雪が締まって歩きやすい早春、猟師に追われるヒグマにとっては、冬眠から覚めたばかりで体力はないし、木の葉が落ちて見通しはいいし、足跡が残って追いかけるしと、受難の季節です。10数年前まで行われていた春季有害鳥獣駆除、いわゆる春グマ駆除は「害獣はとにかく減らした方がいい」という考えに基づいた一種の無差別絶滅政策で、もしあと10年この制度が続いていたら北海道のヒグマは消えていたかもしれません。それほどに足跡が残り、時期を判別できることは、動物の追跡に役に立つのです。

雪が溶けると、若い草の芽が湿った土から次々と現れます。知床のような海から山に続く斜面では、ヒグマは軟らかい草を食べながら、雪解けの線を追うように海岸から高山へとゆっくり移動していきます。

冬眠穴から出たヒグマは、まずは沢で水を飲むようですが、その次にはよくザゼンソウの根を掘って食べます。人間が食べると腹痛をおこすような有毒成分があり、「クマは腹にたまったフンを出すのに下剤代わりに食べるんだ」という説もありますが、本当かどうかは分かりません。早春だけではなく、結構後まで食べるので、単に好きなのかもしれません。土を掘り返した痕跡をよく見ると、食べ残したかけらが見つかります。



4月上旬、雪の上に落ちていた直径約7センチの太く固いフン。冬眠明けに最初にするという「止めフン」かもしれない

次回でお話ししますが、フンや食痕も、よく観察するとその時期がわかります。昨年の秋に落としたフンは、雪の下になってぺったりと平らにな

っています。植物の食痕は、もちろんかじり痕が茶色く変色していきますね。これからが、ヒグマにとっても気持ちよく何でも食べられる、いちばん幸せな季節なのでしょう。

■ 爪痕

堅い雪や泥地には、深い爪痕が残ります。大型のヒグマは爪の長さが7-8センチもあります。このほか、よく爪痕を見るのは、トドマツの木です。白っぽく、なめらかなトドマツの樹皮は、爪痕が見つかりやすいのでしょうか。ほかの木にも登っているはずですが、なかなか見つかりません。トドマツにヒグマの好物が実るわけではなく、狙いは絡みついたコクワ（サルナシ）やヤマブドウの実です。爪痕が残る木には、たぶんこうしたツル植物が絡んでいるはずですよ。

爪痕を見つけたら、じっくり観察してください。登るときは爪を深く食い込ませて、ぐいぐいと上がるので、それほど大きな傷はつきません。下りは爪を立てながらズル、ズルッと下りてくるので、斜めや垂直に4-5本の爪痕が筋状に残ります。

樹皮のささくれが生々しく、ヤニもそれほど出ていないのは新しいものなのでしょう。1-2年たつと、傷口は埋まり、さらに年月が経って木が太ると、爪痕自体が引き延ばされたように広がってきます。新旧の爪痕があるのは、毎年、食べに来るお気に入りの場所なのでしょう。

体が大きいヒグマは、若いときしか木に登れません。3-4歳くらいまででしょうか。大人のクマは、おいしそうなコクワの実を見上げながら、仕方なく落ちている実を探すのでしょうか。本州・四国にいるツキノワグマは、より森林に適した体形で、爪の形もカーブして登るのに適しており、成獣も木登りが得意です。

ツキノワグマはブナやミズキに登り、手を伸ばして枝先を引き寄せては実をとることがあります。折り曲げられた枝が何本も集まって鳥の巣状になることもあり、クマ棚、あるいは円座と言います。ヒグマでもまれにミズキの枝先を引き寄せて数本が集まることもありますが、ツキノワグマのような見事な形にはなりません。晩秋、木々の葉がすっかり落ちると、生木の時に折られた枝は葉が枯れたまま残っているので、クマ棚はとてよく目

立ちます。

■「ナワバリ」はない

よく、ナワバリ宣言のために爪痕を高いところにつける、という話を聞きます。大きいクマほど高いところに爪が届くので、力関係が分かるのだとか。確かにたまに立ち上がって爪を立てる姿は見ますが、観察例が少ないので、何のためかは分かりません。少なくともヒグマにナワバリ行動はないので、「宣言」の意味はないでしょう。

動物のナワバリとは、採食や繁殖のために一定区域を自分の領域として、同種の別個体の「侵入を排除」することです。ヒグマの場合、繁殖期にはメスの後を複数のオスがついて歩き、交尾後は分かれてしまうので、ナワバリの形はありません。採食場所も、例えばサケ類が捕りやすい地点は何頭ものクマが出入りするの、「排除」や「領域防衛」という行動は見られません。そこにあるのは、お互いに少し離れて順番を待ち、近すぎると緊張感が漂う、個体間の相対的、心理的な距離感です。



河口近くでサケを探す親子ヒグマ。ここには夜になると別のクマたちが次々と現れ、餌のある場所を何頭ものクマが利用していることがわかる

人間にたとえると、ヤクザ屋さんと一般人の行動の違いです。ヤクザは繁華街にナワバリを持ち、そこに別の組のヤクザが入ると、ナワバリ荒らしとして抗争になります。これが防衛と排除です。ただし、素人さんには手を出しません。一般人はお客さんだからです。

一部の酔客も特定の店を「ここは俺のナワバリだ」と宣言することがあります。でも、ヤクザと違って、(普通は…)ほかの客を追い出したり、争ったりはしません。そんなことをしたら、店主が困ってしまいます。彼にとって行きつけの店は、よく通う「ホームレンジ(行動圏)」ではあっても、他人を排除する「テリトリー(ナワバリ)」ではないのです。

ヒグマの場合は、自分が行動するエリア(ホームレンジ)はあっても、テリトリーは存在せず、

ヒグマ同士の行動圏は重なりながら、譲り合い、時間的にずらして同じ場所を使うことも多いのです。そう考えると、ナワバリ宣言をする意味自体がないのです。

同様に「人間がクマのテリトリーに入ったから襲われた」などという解釈も、全くの見当違いでしょう。そもそもナワバリがない上に、同種の動物ではない人間を対象に排除行動は起きないからです。事故が起きるのは、「ナワバリに立ち上がった」からではなく、ぼったり出くわしたりして、本来保つべき距離がなくなり、異常な緊張関係が起きてしまった、と考えた方がいいでしょう。



複数のヒグマが背こすりをしたとみられる人工林のトドマツ。林道のまがりかどにあり、樹皮がはがされてヤニが流れ、体毛がこびりついていた

クマがよく通る道筋で、特定の木に「背こすり」をすることはよくあります。立ち上がって背中をぐいぐい押しつけ、木にはヒグマの毛が絡みついて残っています。同じ木に何頭ものクマが背こすりをして、ぼろぼろになっていることもあります。ナワバリ宣言ではないけれど、「オレ様 came ぞ」「どんな奴が来たかな」という個体間のコミュニケーションがあるような気がします。なぜか、通り道のカーブの、ちょっと見通しのいい木が選ばれるようです。

高山帯ではせつかく立てた道しるべが背こすりの対象になって、すぐ倒されてしまう、なんてことも聞きます。傾いたり、かじられたりした道しるべがあったら良く観察してください。歯形や体毛が見付かるでしょう。

最近ではDNAによる個体識別や血縁調査が可能なので、背こすりの木で体毛を採取したり、人為的に背こすりする場所を用意して毛を採取する試みも行われています。

旭川市 突哨山公園 '11年3月27日

天候 晴 掲載紙

<春の突哨山 かんじきで歩く>

突哨山公園は、旭川にいくつかある公園の一つで隣町の比布町にまたがるエリアです。高度成長期の末期にゴルフ場になる予定が、国内最大級のカタクリ群生地等の保護のため、市民運動により保全がなされた公園です。指定管理者はNPO 法人-森林再生ネットワーク北海道（略称）もりねっと。旭川市・突哨山公園運営協議会・もりねっとの3者が調整・運営に当たっています。現在も整備継続中。

今回は国道40号線より北側のカタクリ広場側の突哨山公園をスノーシューで散策。春にはカタクリの花咲く場所も残雪期は雪の下でした。

(柳田 和美 記)

北区 北大構内 '11年4月23日

天候 雨 掲載紙

<春の北大構内 ~遺跡公園~>

北大構内はハルニレやカツラの花が目立ち、キクザキイチゲ、アズマイチゲが花を開いてくれなく、キバナノアマナ、エゾエンゴサク、ニオイスマレ、キクバオウレン、マンサク、キタコブシが冷たい春雨に震えていました。

遺跡保存庭園にロープで囲った場所があり、特定外来生物であるオオハンゴウソウを防除するための実験を行っているところでした。地下茎から発芽を抑制する物質を分泌し他の植物を発芽させない仕組みがあるらしいのです。

医学部棟西側の駐車場から8~9世紀の「北海道式古墳」が見つかったと4月20日の新聞に載りました。昨日は発掘現場が堀の隙間から見られましたが、今日は残念ですがシートが被せてありました。

福島から自主避難の方が参加されていて、「札幌に居る間に北海道を知ろうと思って」と前向きに話されていました。人がなすすべもない、今の厳しい日本の現実に胸が痛みました。

(須田 節 記)

北区 百合が原公園 '11年4月24日

天候 晴 掲載紙

<都市の中の造成公園 ~北方系の花と鳥たち>

牧場や野菜畑から造成された公園は32年が経ちました。雪解けが遅かった為にロックガーデンの自然観察 99号 (12)

北方系の花が咲いていませんでしたが、チューリップの種類や枯れ葉のついているシナマンサク、チオノドクサ、キバナセツブンソウ、エリカの花が見られました。

野鳥観察に適した日和になり、シジュウカラ、カワラヒワ、アオジ、ヤマガラ、トビ、ハシブトガラス、キジバト、ツグミ、モズ、アオサギ、コガモ、マガモ、スズメ、ヒヨドリ、シメ、アリスイの16種類を観察しました。

京都弁の参加者の会話が、観察会に華やかさを添えました。

(須田 節 記)

小樽市 旭展望台 '11年4月29日

天候 曇時々雨 掲載紙 道新、読売、毎日、赤旗

<春一番の草花>

少し肌寒さを感じる朝でしたが、集まってくれた方々の人数は、例年をはるかに越える35名。気を良くした指導員、ウキウキ気分できざ出発。まずはツノハシバミの観察。雌花の鮮やかな赤が印象的でした。

次はオオウバユリがいっぱい出ているところで、ユリ科がなぜ花を咲かせるまでに何年もの年数が必要なのかをみんなで勉強しました。

低い気温のせいか、カタクリ群落は花の開いているものがほとんどなく残念でしたが、アリ散布植物の話には皆さん興味深く耳を傾けてくれました。

(岡部 実 記)



キクザキイチゲ

北見市 たんのかたくりの森 '11年5月3~6日

天候 小雨~曇~晴 掲載紙 道新、経済の伝書鳩

<分布東限近くのかたくり>

今年は雪解けが早く、4月末の調査時点でかなりの開花が見られた。しかし、観察会に入った3

日からは天候に恵まれなかった。

図書館で、端野カタクリの秘密や保護のこと、観察の注意などを理解して貰う。その後現地へ移動、キタミフクジュソウ、ツルネコノメソウ、チシマネコノメソウ、アズマイチゲ、ミヤマスマレを見ながら群生地へ。まず、足元の小さい葉や一年生(実生)を確認してから観察。

5日までは、恵まれない天候のためカタクリもアズマイチゲもしぼんだ状態。厳しさに耐える端野のカタクリを実感できたのではと思う。

フクジュソウとキタミフクジュソウの違いや、エゾエンゴサクの葉の多様性を実際に比較して興味津々でした。

しっかり開いたカタクリを見ることができたのは、6日最終日の参加者だけでした。

観察できた花(文中記載以外、期間中開花も含む)

キジムシロ、フキノトウ、ミヤマエンレイソウ、キタコブシ、ニリンソウ、セイヨウタンポポ、サッポロスゲ、トクサ

(竹林 正昭 記)

中央区 道庁・北大植物園 '11年5月4日

天候 曇後雨 掲載紙

<園内の早春の足音>

雨で開催も危ぶまれましたが、開始の頃には雨も止み、悪天候にも拘らず集まってくれた数名の参加者と、例年通り道庁・植物園を回りました。

今年は気温の低い曇りの日が多く、咲いている花の数も多くはありませんでしたが、終わってみると予定を30分以上オーバーしていました。

寒い中付き合ってくれた参加者の皆さんに感謝。

(山形 誠一 記)

北区 五ノ戸の森 '11年5月7日

天候 曇 掲載紙

<早春の草花を見よう>

前日の晴れは続かず、曇り空の肌寒い日でした。参加者を健脚組とそれ以外の2つに分けて出発です。

フクジュソウの咲き終わりや、カタクリ、エゾエンゴサク、キクザキイチゲ、キバナノアマナ、咲き始めたエンレイソウ、オオバナノエンレイソウ、ニリンソウなどあちこちで見られました。

カツラの紅い新芽や、エゾノウワミズザクラの花芽のつき方を観察。ケヤキ、サイカチ、キリなど北海道にない樹木の観察もしました。

(横山 加奈子 記)

中央区 円山公園 '11年5月8日

天候 曇 掲載紙

<春に咲く花>

今日の目玉は、スマレサイシンとシラネアオイ。

花見客でにぎわう公園内をさけ、坂下グラウンドから大師堂、動物園コースを回りました。

(山形 誠一 記)

恵庭市 恵庭公園 '11年5月14日

天候 曇 掲載紙

<早春の日覚め>

天は我らに味方してくれたのでしょうか。

昨日から曇っていた空模様も、今日はお天道様が顔を出してくれ、程よい観察会日よりでした。

恵庭公園では今を盛りとニリンソウが満開となり、そこかしこ一面に咲き競っています。良く観察するとミドリニリンソウなどがあり、宝物を見る気分となり感激もひとしおです。

森の守り神であるミズナラは、樹齢350年。威風堂々とした大木で、大人4人が抱えるほどで、計測すると5m30cmもありました。

(池田 厚 記)

手稲区 手稲本町市民の森 '11年5月15日

天候 曇後雨 掲載紙

<自然歩道を散策して春を感じよう>

夜中の雨が朝方に止み、観察会開始の頃には日差しも出てきました。毎年参加される方や、集場所まで汗をかきながら来た方をはじめとして7名の参加者で出発しました。

咲いてる花は、ヒトリシズカ、オオタチツボスマレ、エンレイソウ、シラネアオイ、エゾエンゴサク、ニリンソウなど。

カメラでお気に入りの写真を撮られる方など、自然歩道を約2時間かけて、一人ひとりが春を感じた観察会となりました。(高田 敏文 記)

清田区 平岡公園 '11年5月15日

天候 曇後晴 掲載紙

<人工湿原の変わる様子を見よう>

強風8℃と寒い中、梅見客で大変な混みようで駐車場も満車でした。

梅見コースを避け、木道へ。花はミヤマスマレ、ナニワズ、オオバナノエンレイソウ、ミヤマエンレイソウ、オオカメノキ、ミズバショウなど。

野鳥は、アオジ、センダイムシクイ、カワラヒワ、メジロ、カラ類と、今日はウグイスが3分程、3~5m先の枝をあちこちと大サービス。

来月の観察会の楽しみを参加者と話し合いました。(佐藤 佑一 記)



北区 五ノ戸の森 (11/5/7)

札幌市北区 佐藤 ゆきえ

朝から今にも雨が降ってきそうな空模様。そしてとても寒い。この寒さではあまり花も咲いていないのではと思いつつ五ノ戸の森へ来ました。

カタクリ、エゾエンゴサク、オオバナノエンレイソウ、アズマイチゲ、キクザキイチゲが所々に少し、ニリンソウはほとんど蕾でした。初めて見るネグンドカエデの雄花がかんざしの様で素敵でした。

鳥はアオサギはもちろん、アカゲラ、カワラヒワ、頭に冠羽を持った珍しいゴイサギがいて感激しました。この公園は木に標札がついているので一人で来ても名前が分かって嬉しいです。

観察指導員の方は、鳥の写真や、木や花の種、アオサギの卵の殻、図鑑などで大変わかりやすく解説してくれました。

こんな素晴らしい公園なのに何故ゴミを捨てる人がいるのかしら？ 観察に来た人の中に、ゴミ拾いをして下さる方がいました。見上げた心がけです。ありがとうございました。

恵庭市 恵庭公園 (11/5/14)

恵庭市 久瀧 雅恵

前日はまさに春の嵐。曇り空に、参加者を心配したものの班を1つ増やしての出発。

昔は御料地だったという、住宅地に隣接するこの公園を歩くようになって4年。今年は少し遅れているようで、花どきのニリンソウに何とか間に合う。天気が良くて花が開ききってれば、グッと白さが増して、まだ明るい園内にエゾエンゴサクの薄青やピンク、そして柔らかい緑で、これはもう「春の恵み」。ミドリニリンソウも案外多くて皆で探しました。

名前のおりのマムシグサ、タニギキョウやホソバナアマナも少し見られましたが、色を落としたナニワズ、コンペイトウを結んだヒメイチゲ、ヒメニラも硬くなって、春の公園は忙しい。一方で山菜採りに忙しい人にも、家に近くて歩きやすいここはいい公園らしい。

「行事」と走り回る子供達は、水辺の苔生した石の上に乗棒で水をかき回す。「市民に親しまれる公園」って？ 考えてしまう。

地方研修会 in 札幌のお知らせ

「樹木医と歩く円山の森」

天然記念物「円山」を有する円山公園は、また都市公園としての性格から四季を通して多くの人々が訪れ親しまれています。

しかし近年、外来種の侵入やオーバーユースの問題など色々な課題を抱えています。

樹木医の目を通してみる円山は、私たちに、これまでとは違う円山の姿を教えてくださいたいと思います。

■と き： 9月4日(日) 午前10時～午前12時まで

■ところ： 札幌市中央区 円山公園内 円山公園管理事務所前集合
(地下鉄東西線円山公園駅下車)

■案内人： 田淵美也子(円山公園樹木医)

■申 込： 山形へ(電話・ファクス011-551-5481)

■当日連絡は山形へ(011-551-5481)

2011年度 観 察 会 ('11年6月25日～'11年9月25日)

※日程や下見の日時は連絡先指導員に確認してください。

年月日	テーマ	観察地	集合場所・時刻	交通機関	下見	連絡先
6月25日 (土)	初夏のカタクリの森 カタクリの実と初夏の花たち	北見市端野町 たんのカタクリ の森	北見市立端野図書館前 10:00集合～12:00解散 共催 たんのカタクリと森の会	北見バスターミナル 「美幌津別線」9:20発乗車 「屯田の杜公園」下車1分		竹林正昭 0157-56-3357
7月2日 (土)	蘭島川に遊ぶ 古代人の遺跡が多い	小樽市蘭島地区	JR蘭島駅 9:00集合～12:00解散	小樽発8:17長万部行き または小樽・余市間バス (20分おきにありますが)		後藤言行 0134-29-3338
7月10日 (日)	親子観察会 藻岩山の生きものさがし	札幌市南区 藻岩山スキー場	定鉄バス「南34条西11丁目」バス 停前 9:00集合～12:00 スキー場駐車場解散 雨天中止 ※小4以下は保護者同伴 帽子、水、捕虫網持参	札幌駅バスターミナル7番乗り場、 定鉄バス[54]「真駒内本町行き」 乗車、または地下鉄南北線真駒内 駅バスターミナル、定鉄バス「南 4」市立病院行き」乗車、 「南34条西11丁目」下車。		須田 節 011-752-7217
7月10日 (日)	「平岡公園」観察会 人工湿原の変わる様子を観よ う	札幌市清田区 平岡公園	平岡公園第一駐車場(厚別中央通 沿い) 10:00集合～12:00解散 小雨決行	地下鉄東西線 大谷地駅発中央バス 「大66」ジャスコ平岡店行・平岡5 条3丁目下車(前方左の緑地歩道を 200m, 徒歩5分)		佐藤佑一 011-881-5336
7月16日 (土)	親子観察会 星置川の生きものさがし	札幌市手稲区 星置川	JRほしめ駅北口前駐車場 10:00集合～12:30解散 濡れてもいい靴 着替え	JRほしめ駅下車		横山武彦 011-387-4960
7月17日 (日)	「夏の円山公園」観察会 円山登山	札幌市中央区 円山公園	地下鉄東西線円山公園駅 1階バ ス待合所 9:00集合～12:00解散	地下鉄東西線円山公園駅下車		山形誠一 011-551-5481
8月6日 (土) ～ 7日 (日)	「第21回滝野の自然に親しむ 集い」 滝野自然学園親子1泊2日観 察 会 夏休み野外学習(親子・子供特 集)	札幌市南区 滝野自然学園	申し込み方法、申し込み締切など 詳細は未定 決まり次第、新聞、広報誌などで お知らせします お問い合わせは「連絡先」の指導員 まで	地下鉄真駒内駅より中央バス「滝野 公園」行き「アシリベツの滝」下車徒 歩3分		畑中嘉輔 011-581-5439
8月21日 (日)	「夏の錦大沼」観察会 木々の下は涼しいネ	苫小牧市 錦大沼総合公園	錦大沼総合公園駐車場8:50集合 9:00～14:00解散 昼食持参・雨天原則決行・強風日 中止 あれば双眼鏡・ルーペ・図鑑など	自家用車のみ	8/20 (土) 9:00	佐々木昌治 0144-67-2022
8月27日 (土)	晩夏のカタクリの森 晩夏の花と気の早い実たち	北見市端野町 たんのカタクリ の森	北見市立端野図書館前 10:00集合～12:00解散 共催 たんのカタクリと森の会	北見バスターミナル 「美幌津別線」9:20発乗車 「屯田の杜公園」下車1分		竹林正昭 0157-56-3357
9月3日 (土)	「秋の紋別岳」観察会 秋の花・樹木	千歳市 支笏湖外輪 紋別岳(864m)	中央バス支笏湖湖畔バス停前 9:40集合～15:30解散予定 登山靴不要 昼食持参	JR札幌駅7:52発「千歳行き」 8:21千歳駅着 千歳駅前中央バス8:50発「支笏湖 畔行き」支笏湖湖畔下車 有料駐車場有	8/27 (土)	宮本健市 0123-28-4720
9月11日 (日)	「平岡公園」観察会 人工湿原の変わる様子を観よ う	札幌市清田区 平岡公園	平岡公園第一駐車場 (厚別中央通沿い) 10:00集合～12:00解散 小雨決行	地下鉄東西線 大谷地駅発中央バス 「大66」ジャスコ平岡店行・平岡5 条3丁目下車(前方左の緑地歩道を 200m, 徒歩5分)		佐藤佑一 011-881-5336
9月18日 (日)	もつともつ藻岩山 藻岩山散策 (旭山記念公園～慈恵会)	札幌市中央区～ 南区 藻岩山	旭山記念公園駐車場 10:00集合～14:00 慈恵会駐車場で解散 昼食持参	地下鉄東西線 円山公園バスターミ ナル発、JRバス「旭山記念公園」 行き		山形誠一 011-551-5481
9月25日 (日)	「野幌森林公園(大沢口)」観 察 会 秋の野幌の森を歩く(子供連 れ歓迎)	江別市 野幌森林公園 大沢口	野幌森林公園大沢口駐車場 10:00集合～12:30解散	JRバス新札幌駅発 循環バス83番、 JR森林公園駅→徒歩8分国道12号線 開拓の村入口バス停→循環バス、 「文教台南町下車」徒歩10分		横山武彦 011-387-4960

【事務局だより】



- ☆ 2011年総会が4月9日（土）午後1時～、午後3時～講演会「森を生かす、人とつなぐ」、懇親会午後5時からと、盛会に終わりました。
- ☆ チラシ配布やご案内、お誘いなど、みなさまのご尽力で2011年6月17日（金）～19日（日）恵庭青少年研修センターで予定通り自然観察指導員講習会が開催されます。深く感謝申し上げます。1人でも多くの方が当会に入会して下さるよう努力いたします。次号で新入会会員のお知らせをいたします。

☆ 観察会追加・変更の連絡は、観察部山形、広報担当岡田、事務局須田、HP担当竹林へお願いします。
観察会報告は観察部山形へお願いします。

【理事会だより】 <理事会議事録から抜粋>

- ☆ 第1回理事会 6/3 札幌市エルプラザ
2011年度総会・講演会開催報告
自然観察指導員講習会 6/17～6/19 所属部の希望を募る
全道研修会 7/6～7/7「霧多布湿原を歩く」
地方研修会Ⅰ 8/13「突峭山でコウモリと森のウォッチング」旭川市
地方研修会Ⅱ 9/4「樹木医の円山の観察」札幌市
第22回滝野の集い 8/6～8/7滝野自然学園（下見7/16、7/31）
次回第2回理事会 8/1札幌市エルプラザ

北海道自然観察協議会のホームページ <http://www.noc-hokkaido.org/>

会費や寄付は	----->	郵便振替口座	02710-1-8768	北海道自然観察協議会
	----->	会 計	畑中 嘉輔	札幌市豊平区西岡3条13丁目12-13
			TEL/Fax 011-581-5439	E-mail aiai-h@f4.dion.ne.jp
観察会保険料は	----->	郵便振替口座	02770-9-34461	北海道自然観察協議会観察保険料
	----->	観察会担当会計	小川 祐美 小樽市	
			TEL/Fax 0134-51-5216	E-mail streamy@estate.ocn.ne.jp
観察会報告書・資料は		観 察 部	山形 誠一	札幌市中央区双子山1丁目12-14
			TEL/Fax 011-551-5481	E-mail seiichi.y@jcom.home.ne.jp
研修会関係は	----->	研 修 部	北道 米雄	札幌市北区北10条西2丁目9-1 704号
			TEL 011-299-1343	E-mail
退会、住所変更の連絡他は	----->	事 務 局	須田 節	札幌市東区北40条東9丁目1-13
			TEL/Fax 011-752-7217	E-mail zan00711@nifty.com
事故発生等緊急時は	----->		アスカ・リスクマネジメント 担当本間氏	TEL 011-873-2655
投稿や原稿は	----->	編 集 部	竹林 正昭	北見市端野町3区378-3
		HP担当	TEL/Fax 0157-56-3357	E-mail charki.chiku@mbb.nifty.com

表紙写真 竹林正昭



自然観察:2011年 6月 15日 / 第99号 年4回発行
(会員の「自然観察」購読料と郵送料は会費に含まれています)
発 行 **北海道自然観察協議会**
編 集 北海道自然観察協議会編集部